

茨城大学

短期海外研修

マレーシア

2018年度報告集



茨城大学 グローバル教育センター

はじめに

2019年3月10日（日）～31日（日）、茨城大学の12名の学生がマレーシア科学大学での短期海外研修に参加しました。今回が2回目となった本研修では、新たな試みとして、インドネシアやサウジアラビア、タイ、中国、韓国などからの留学生と一緒にマレーシア科学大学（USM）が提供するIntensive English Programの授業に参加しました。3週間の研修では、英語の授業を受講するほかに、マレーの伝統的な家庭でのホームステイ、世界遺産となっているジョージタウンの散策などを通して、現地の社会文化に対する理解を深めました。本報告集には、マレーシア科学大学での短期海外研修に参加した12名の学生のフィールドワークレポートを収録しています。今後マレーシア・ペナン島に留学、旅行する人々にとって有益な情報源になればと考えています。

瀬尾匡輝

茨城大学グローバル教育センター 准教授

2019年4月

研修スケジュール

月日	都市	時間	スケジュール／宿泊地
1 3/10(日)	成田 発 クアラルンプール 着 クアラルンプール 発 ペナン島 着	10:10 17:05 19:00 19:55	✦空路、ペナン島へ 到着後、乗り継ぎ ペナン到着 到着後、現地係員と合流後大学へ 〈大学学生寮泊〉
2 3/11(月) 13 3/22(金)	ペナン滞在	終日	マレーシア科学大学にて語学研修 ※土・日はフリー 〈大学学生寮泊〉
14 3/23(土) 15 3/24(日)	ペナン滞在	終日	ホームステイ (ホストファミリーとお過ごしください) 〈ホームステイ〉
16 3/25(月) 20 3/29(金)	ペナン滞在	終日	マレーシア科学大学にて語学研修 〈大学学生寮泊〉
21 3/30(土)	ペナン島 発 クアラルンプール 着 クアラルンプール 発	20:25 21:30 23:35	大学集合 現地係員と共に、空港へ ✦空路、クアラルンプールへ 到着後、乗り継ぎ ✦空路、帰国の途へ 〈機中泊〉
22 3/31(日)	成田 着	07:15	空港到着、通関を経て解散

研修費用：¥229,450

研修参加費・宿泊費・航空券・現地の交通費・
海外旅行傷害保険代が含まれた費用



3月10日出発 成田空港にて



英語の授業



3月29日 修了式



3月31日帰国 成田空港にて

マレーシアの文化

関森ちあき（人文社会科学部2年）

<衣> 洋服編

マレーシアは、多民族多宗教国家であるが、イスラム教が約7割と大半を占めている。その為、肌の露出は少なめの服を着ていくことをお勧めする。3月のペナン島の平均気温は27度と非常に高い。体感的には、日本の真夏の暑さだった。しかし、イスラム教の学生は長そで長ズボンが当たり前である。短パンやノースリーブ、タンクトップは学内では禁止されていた。私は、上は半袖で下は長ズボンや七分丈のズボンを穿くことが多かった。しかし、観光地に行くと、観光客らしき人々がタンクトップや短パンを穿いている姿が見受けられた。暑いので、日傘や帽子、日焼け止めクリームは必須であった。これらは、現地のショッピングモールでも買いそろえられるので、荷物を増やしたくない人は、現地で入手すると良いと思う。



先生（前列左）とクラスメート

<交> 交通編

ペナン島では、バイクも多く走っていた。中には、前後に子どもを乗せて3人でバイクに乗っている人もいた。ヘルメットを着用していない人も多く見受けられた。日本に比べて横断歩道が少なく感じた。その為、バディからは、車やバイクがスピードを出して走っている中を、タイミングを見計らって皆で渡る、ということを教わった。初めの頃は、非常にスリリングでタイミングがつかめず、なかなか渡れなかったが、慣れてくると、余裕をもって渡ることができるようになった。

車も無茶なタイミングで車線変更をしてくることが多い。ウィンカーを出さないことも多くあり、このような交通環境で事故が起これないことが不思議に思った。

宿泊施設（RECSAM）からUSMまでのバスは、急発進・急停車の連続だった。立っている時は気を張って、手すりを掴んでいないと、危ない。また、バス停のベンチに座っていると、乗車しない人だと思われて、停まってくれない時があった。バスに乗りたいときは、必ず、手を振って乗りたいアピールをすることが大切である。

また、ペナン島内の移動手段として、Grabというアプリを利用した。日本でいうタクシーのようなものだが、運転手は自分の車を使う。値段もタクシーより安く、呼んでから平均して5分～10分程度で来るので、学校帰りに観光地を回るときはGrabを利用することが多かった。Grabの運転手も、無口な人、良く話す人、マレー系の人、インド系の人、中華系の人、と様々であった。車内のラジオもマレー語・英語・中国語と様々で、多民族・多宗教国家ということを感じた。



ジョージタウン内にある壁画アート



ホームステイ1日目！
みんなで釣り体験！

<生> 生活編

ペナン島全体の雰囲気は、自由で開放されたような印象を持った。犬や猫、ニワトリなどが、ひもやゲージで囲われていることは少なかった。学内には猫が多かった。街の中には、犬が放し飼いにされていたり、ニワトリがハトに交じって歩いていた。初めは驚いたが、人間に危害を与えるようなことはしない温厚な動物が多かったので安心した。

ペナン島の3月の降水量は、東京の2倍！ 雨がずっと続くというよりは、短時間にどっと降ることが多かった。雨傘はリュックに常備しておくといよい。

トイレは、ショッピングモール以外ではトイレトペーパーが備え付けられていなかったような気がする。水に流せるティッシュは、必ず携帯しておいたほうが良い。ティッシュではなく、水を使う人もいるので、床や便器が濡れていることが多い。



ウォールアート



バトゥ・フェリンギ・ビーチで見た
日の入り



ウォールアート



ゴムの素となる樹液を採取！

<宗> 宗教・民族編

マレーシアは多民族多宗教国家である。人口は約3,200万人（2017年）で、民族の割合は、マレー系が約67%、中国系が約25%、インド系が約7%となっている。宗教はイスラム教が61%、仏教が20%、キリスト教が9%、ヒンドゥー教が6%という割合になっている。

しかし、ペナン州はマレー系が多数派を占めるマレーシアで唯一、華人系住民が6割を超す州である。体感的にも、アジア系の顔をした人々とすれ違うことが多かった気がする。

また、モスクが学内にもあり、ある時間になると、お祈りの歌が流れてくることがあった。イスラム教を信仰していると思われる学生たちが広場に集まって、お祈りをしている光景も新鮮であった。



カピタン・クリン・モスクの内部



カピタン・クリン・モスクでは、短パンやタンクトップはNG。女性はスカーフを身に付けなければ入ることができない（スカーフは借りられる）。お祈りの時間に見学することはできない。

<食> 食べ物編

マレーシアは多宗教国家であり、イスラム教やヒンドゥー教等を信仰している人々が混在している。そのため、料理に使われるお肉は鶏肉がほとんど。まれに牛肉が食べられるお店もあった（ex.USM近くのkorean Café Shwimpyo）。ここでは、7つのマレーシア料理を紹介する。

①Nasi Goreng(ナシゴレン)

Nasi=ご飯 Goreng=炒める・揚げる
チャーハンに近いご飯もの。香辛料で味付けがされていて、唐辛子と玉ねぎのようなものが入っていることが多い。初めてナシゴレンを食べた時、インゲンだと思って青唐辛子を思いっきり食べたら、大変なことになった。顔が燃えたように熱くなって、しばらく口の感覚が失われた。食べる前に何者なのかをしっかりと確認してから口に運ぶようにしたほうがよい◎！



②Mee Goreng(ミーゴレン)

Mee=麺 Goreng=炒める・揚げる
香辛料の効いた焼きそばのようなもの。写真は、学内にある「U RAXA café」で食べたミーゴレン。頼む前に辛いのが苦手と店主に伝えたので、辛くはなかったが、とても味が濃かった。ペヤングにソースを大さじ10杯加えたくらいに濃かった。U RAXA café で食べる機会があったら、チキンライスをお勧めする。



③Roti (ロティ)

Roti=パン

薄く伸ばしたもちもちのナンのようなものを香辛料の効いたカレースープにつけて食べるもの。Rotiの中に甘いジャムが入っているRoti KAYAや、チーズが入っているRoti cheese など、種類は豊富。私は朝ごはんとして、USM内にある「Subaidah」でRoti Canaiを食べることが多かった。現地の人々も朝ごはんとしてこれを食べている人が多く見受けられた。私のお勧めは、Roti cheese。様々な種類があるので、食べ比べをしてみるのもよいと思う。



④Capati (チャパティ)

Rotiよりも小麦粉要素が強く、薄パン生地のようなものをカレースープにつけて食べるもの。Rotiについてくるカレースープよりも辛いので注意！



⑤Assam Laksa (アッサム・ラクサ)

エビや魚から取ったスープに魚のほぐし身を混ぜ、チリなどで味付けをした甘酸っぱい麺料理。麺は米粉から作られる。パクチーやパイナップルが入っていることも。日本では味わえない独特な風味と味を楽しむことができる。ペナンが発祥の地である。是非、トライしてみたい。



⑥Char Kway Teow(チャー・クイティオ)

私がマレーシアの料理の中で一番好きなもの、チャー・クイティオ。米粉の平打ち麺を炒めた醤油焼きそば。海鮮・肉・もやし・卵・ニラ等がたっぷり入っていて、非常に美味しい。チャー・クイティオはバディ達に連れて行ってもらったジョージタウン内にある「BEE HWA CAFÉ」で初めて食べた。本当に美味しいので、是非食べてもらいたい。



* 番外編 *

日本の食べ物が恋しくなったら、ジョージタウン内にある「明治屋」に行くと良い。日本のお菓子・お茶・冷凍食品・ふりかけ・味噌汁等が揃っている。ただ、日本で買うよりも高い。

ありがとう！ トゥリマカシ！



マレーシアの文化に触れて

渡邊永（工学部2年）

今回、私は3/10～3/31までマレーシアのパナン島に滞在した。そこで、私はマレーシアの文化を様々なことを通して触れることができた。また、マレーシアの文化に触れることで日本の文化とマレーシアの文化の違いも見つけることができた。

マレーシアに来て、日本とマレーシアの違いを最も感じたことはマレーシアが多民族国家であることだ。マレーシアには、マレー系、中華系とインド系などといった様々な民族が住んでいる。言語、宗教、食べ物のあらゆる面からそのようなことを感じることができた。

まず、言語において、マレーシアは多民族国家であることからマレー語、英語、中国語といった様々な言語を話す人が存在することがわかった。日常会話では、マレーシアの人たちは英語をよく使い、話していた。そのため、滞在中は人にものを尋ねるときには英語を使えばコミュニケーションをとることができた。しかし、場所によってはマレー語しか通じないところもあった。そのとき、滞在中に私たちのお世話をしてくれたマレーシア科学大学の学生さんたちはマレー語を使い、会話していた。また、Grabの運転手とマレーシア科学大学の学生が中国語で会話していたところを見ると、マレーシアには英語とその他の言語を話すことができる人が多いと感じた。日本では、日本語だけを話す人が多く、日本語とその他の言語を話す人は少ないと思う。そこで、マレーシアと日本の違いを感じることができた。

次に、宗教において、マレーシアには様々な宗教が存在することがわかった。街を歩くと、様々な仏教寺院やモスクを見ることができた。特に、モスクにおいては、大きいモスクや小さいモスクなど様々な場所で多く見られた。また、女性の服装では、ヒジャブといったスカーフのようなもので頭髪を隠している人をよく見かけた。このことから、マレーシアでは、イスラム教を信仰している人が多いと感じた。日本では、モスクやヒジャブを着ている人を見たことなく、私にとっては新鮮なものであった。ジョージタウンにあるカピタン・クリン・モスクでの見学やムスリムであるクラスメイトとの交流によりイスラム教についてよく知ることができた。今まで触れたことのない宗教を見て、知ることができたのは私にとって貴重な体験であった。



カピタン・クリン・モスク



ケックロックシー

そして、食べ物においても多文化の特色がみられた。中華系の食べ物、マレー系の食べ物、インド系の食べ物といった様々な民族の食べ物があった。中華系の食べ物にはバクテー（肉骨茶）やパンミー、マレー系の食べ物にはサテー、ラクサ、ナシゴレンやミーゴレンなどをインド系の食べ物にはロティを食べることができた。パンミー、ラクサ、ナシゴレン、ミーゴレンはおいしかったが、少し辛かった。サテーはそのまま食べると少し甘いので、ソースをつけて食べるとよい。また、食事のときはフォークとスプーンを使って食べることが多く、ナイフとフォーク、箸を使ってきた私にとっては慣れないものであった。ペナン島にはロングビーチカフェやガーニードライブなどといった屋台街があり、そこで様々な食べ物を食べることができる。ぜひ、ペナン島に行ったら、行ってほしいと思う。



パンミー



手前がラクサ 奥がバクテー（肉骨茶）



サテー



ミーゴレン

様々な民族の宗教や食べ物を体験したいのなら、ジョージタウンに行くことを薦めたい。ジョージタウンでは、様々な民族が暮らし、リトル・インディアン通りのようなインドの特色を実感できる通りやカピタン・クリン・

モスク、セントジョージ教会や観音寺といった様々な宗教的建築物がある。また、ジョージタウンにはウォール・アートといった壁に絵が書いており、その絵を見つけてまわるだけでも十分に楽しめる。ペナン島に行ったら、ぜひ、ジョージタウンを訪れてほしい。



ウォール・アート



ジョージタウンの街並み

最後に、このマレーシア語学研修のプログラムを受けて、私は様々なことを経験し、学ぶことができた。授業や日常会話での英語を使ったコミュニケーションは自分のリスニング力とスピーキング力を向上させるのにとてもよいものだった。また、授業では自分のレベルにあったクラスで授業を受け、そこで、文法やエッセイの書き方などを学ぶことができた。そして、何より授業で中国やペルーといった様々な国の人と関わったことが自分の中で大きな学びであった。そこでは、自国の言語、宗教や政治などについて話し合うことができ、様々な国について知ることができた。これによって、自分の見聞を広めることができた。私は様々な人と出会い、色々な経験をすることができたこのプログラムを受けてよかったと思う。また、ペナン島に3週間滞在することでペナン島が様々な民族が互いに尊重しあって、暮らしているとても良い場所だということも知れてよかった。また、機会があれば訪れたい。



ペナンの観光について
和田 拓樹（工学部3年）

私が今回の3週間でいった観光名所をメインに紹介していく。まずは何とんでも世界遺産にも認定されているジョージタウンである。私たちの宿泊地RECSAMからは15分程度で行くことが可能だ。ここは町全体が観光地となっているので何回行っても楽しめる。1日、2日ではまわりきることは不可能だろう。ジョージタウンには数々の見所があるが、1つ目は歴史的建造物である。もとはイギリスの植民地だったことからジョージタウン北部の建物はコロニアル様式である。



コロニアル様式

また、マレーシアはさまざまな宗教の民族が暮らしているため、多くの寺院がある。クーコンシー（Khuo Kongsi）はペナンで最も豪華な中国寺院といわれている。貿易で大金持ちとなった中国移民クー族によって1901年に建てられた。スリマハリアマン寺院（Sri Maha Mariamman Temple）はペナンで最も古いヒンドゥー教寺院といわれ、1833年、インドからの入植者によって建設された。ここは内装の写真を撮ることはNGとされているので気を付けよう。



クーコンシー



スリマハリアマン寺院

カピタンクリンモスクはムスリムのカピタンによって1801年に建てられた。この中に入るには、女性は正装に着替える必要がある。観音寺（Kuan Yin Temple）はペナンで最も古い中国寺院といわれている。1800年代に広東人と福建人によって建てられた。参拝客が多く、とても混雑していて伝統工芸のような歌と踊りを見ることも可能だ。セントジョージ教会（St. George Church）は1819年に建造された東南アジア最古の英国国教会である。ここは閉館の時間が早いので、中に入るには休日に行くしかない。



カピタンクリンモスク



観音寺



セントジョージ教会

2つ目は周一族の橋（Chew Jetty）だ。これは最も規模の大きい同族の橋で、ここには周一族が集まる水上集落がある。ほかにも李、林、陳一族の橋などがある。あまりにも観光スポットに一族の家が普通にあったので、驚いた。



周一族の橋

3つ目の魅力はストリートアートだ。町のあちこちの壁に絵や針金アートのようなものが情緒的に残っている。またこの絵はトリックアートのようにもなっているものも多く、そこで写真を撮るのが面白い。ところどころにジョージタウンのストリートアートのマップがあるので、それを使ってすべてまわりきるのも面白いチャレンジになるだろう。



ストリートアート

4つ目は町のシンボルとなっているコムター（Komtar）だ。コムターは町の中央に位置し、68階の高さを誇るビルだ。展望台へ行くには約2,000円（ペナンの物価を考えるとかなり高め）かかるが、とても行く価値のあるものだとは私は思う。最上階は屋外となっており、窓を気にせずペナンを一望でき、本土まで見ることが可能だ。日本は安全面の決まりが多く、このような作りにすることは不可能なので、とても新鮮だ。特に夜の雰囲気はとても良いので、夕方から夜にかけて行き、そこで夜ご飯を食べることをおすすめする。



コムター

5つ目は屋台街だ。ガーニードライブ（Gurney Drive）はペナン最大規模の屋台街である。ペナンの定番のみならず、マレー系、インド系、中華系の料理も豊富である。また、この近辺にはガーニープラザ、ガーニーパラゴンの2つのショッピングモールもあり、ここで買い物も楽しめる。都会的なショッピングモール、昔からある屋台街、目の前には海と、日本では見ることができない不思議な光景となっているので、是非とも行ってほしい。私は行くことができなかったが、レッドガーデンはガーニードライブと並ぶペナンの2大屋台街となっているのでここもおすすめだ。ここは特設ステージがありライブパフォーマンスを見ながら食事を楽しめる。また、屋台街はその場によって注文方法が異なるので、事前に調べておくことが肝心だ。



ガーニードライブの屋台街とショッピングモール

6つ目はカフェだ。ペナンには多くのおしゃれなカフェがあり、特にジョージタウンは個性的なお店が多いので面白い。カフェ兼バーというお店も多く、そういったお店で飲み物を1つ頼んで店内の雰囲気を楽しむのもよい。私は最終日の昼にCHULIA COURTでお酒を飲んだのだが、酒類は日本よりも高い可能性もあるので注意しよう。ちなみにマレーシアでお酒は21歳からである。



COFFEEADDICTとCHULIA COURT

次に私が行ったジョージタウン以外の観光スポットを紹介する。1つ目はバトゥフェリンギビーチ（Batu Ferringhi Beach）だ。ここは多くの観光雑誌で1番に取り上げられているビーチだ。ペナン島の北西部に位置し、私たちの宿泊地からは1時間ほどかかるので、休日に行くべきだ。ここでは多くのマリンスポーツを楽しむことができ、私たちはドーナツボートとバナナボートに挑戦した。

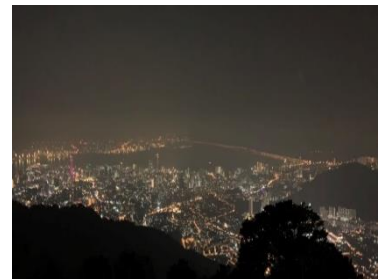
私は初めてマリンスポーツに挑戦したのだが、私にとってこれが留学で一番楽しい思い出となったし、The青春！といえるような思い出も作れた。また、きれいな

日が見れるのでぜひ目によく焼き付け、写真も撮っておこう。ただし海水はあまりきれいではなく濁っていて、大きなクラゲも多くいるのでそこは注意が必要だ。近辺にはナイトマーケットと屋台街があり、そこで夜を過ごした。私はそこでウォールアートが描かれたトートバッグを買ったのだが、基本値段がものすごく高く設定されているので、どこまで店員に負けずに値切れるのかが勝負だ。ありえないほどに偽物の商品が置いてあるのでそこにも注意だ。



バトゥフェリンギビーチ

2つ目はペナンヒル（Penang Hill）だ。ペナンヒルはペナンで最も標高の高い場所で標高は833メートルある。山頂へはケーブルカーを使って行く。私はロープウェイしか乗ったことがなかったので、急な坂を電車のような乗り物に乗って登っていくのはとても面白かった。私たちが行った日は霧がかかっていたので少し残念ではあったが、それでも頂上からの景色は絶景だった。ペナンは3月は常に30℃弱から35℃ほどだが、ここは標高が高いためいつもより少し快適に過ごせる。奥のほうに行くと、様々なかき氷屋があり、とても低コストで買えるのでぜひ食べてほしい。



ペナンヒル

3つ目は極楽寺（Kek Lok Si）だ。これはペナンヒルの南側にあるマレーシア最大の仏教寺院で1890年から20年かけて作られた。マレーシア最大というだけあってきちんと見ようと思えば半日くらいかかるだろう。仏教寺院ではあるが、日本の仏教寺院とはまた少し異なり、エキゾチックさを感じられる。7階建てのパゴダは高さ30メートルあり、昇るのも一苦労で汗だくなるがぜひ昇ってみよう。ペナンヒルと近いので、この2つはセットで訪れてみるというかもしれない。



極楽寺

4つ目はクイーンズベイモール (Queensbay Mall) だ。これはペナン最大のショッピングモールである。実際に行ってみると壁にAEONの文字があり、イオンモールであることに驚いた。モール内にはユニクロやダイソーなど日本にもある店舗もあり、日本以上に価格が高かったのが衝撃だった。ただ、ほかの店は基本的に安いので洋服などはかなりお得に買える。以上が私が紹介するペナンのおすすめ観光スポットである。



クイーンズベイモール

最後に留学に挑戦して学んだことを述べようと思う。私は今回初めて海外に行ったのだが、日本人はとても受け身的でもっと自分に自信を持たなければいけないと感じた。私のクラスで私も含め日本人は間違いを恐れたり、頭の中でものすごく考えてから話し始めるのでとても発言が少なかった。それに比べて海外の人たちは時々先生に質問されたことに対して、まったく違ったことを答えてしまっている人がいたり、文法がぐちゃぐちゃだったりするのだが、相手と頑張ってコミュニケーションをとろうとするのだ。日本人がこうなってしまったのは日本の風潮に原因があると私は思う。できないことや苦手なことをするのを笑ったりバカにすることで、その人が克服しようとしているのを妨げている風潮が日本にはある。日本人は苦手なスピーキングになるととても発言回数少なくなる。一方で海外の人は文法が基本苦手だったが、何度間違ってもどんどん答える。私はその姿を見てとてもかっこいいと思った。それに加え、海外の人たちはみな日本人よりも寛容的で見返りを求めず、だれにでも親切な人が多かった。これはまず自分に自信を持ち心にゆとりがあるからこそ、できるのだと思う。日本ではよく自分に自信をもっている人をナルシストだとバカにすることがある。自信過剰になるのはよくないが、少しくらいはナルシストだっていいじゃないかと私は海外に出て思った。今回クラスメイト、先生、バディなどとSNSを交換したが、みんな自分のことをたくさん投稿していてとても驚いた。中にはモデルのようなポーズを決めた写真もあって、自分に自信があることをうらやましくも感じた。日本人は時々そういった人を悪く言ったり笑ったりするが、それは結局妬みや嫉みだと思う。自分に自信が持てず、そういったことができないから人のことを悪く言ったりバカにして、人にやさしくできない。これはとても悪循環だ。私は今21歳で大人にもなり、これからの人生を自分で決めていかねばいけない。自分にとって最適な進路を選ぶためにまずは自分としっかり向き合って、自分を好きになり、自信をもてるようになりたい。それと自分が興味をもってやるべきか否か迷ったときは、今回の留学のように絶対にチャレンジしてみようと思う。今回の留学で私とかわってくれた皆さん、私にたくさんの貴重な体験をさせてくれて本当にありがとうございました。

Thank you.

Terima kasih.

時間がいくらあっても足りない！

ペナンの観光について！

小磯さくら (人文社会科学部3年)

1. ミックスカルチャーな魅力と自然がたくさん

① 極楽寺 (Kek Lok Si Temple)

20年以上を費やして建設された、中国仏教寺院であり、仏塔はタイとビルマの建築様式を融合したもの。七層からなる仏塔の中は何段もの階段があり、頂上まで登るのには体力を消耗するが、絶景が広がっているため登る価値は大いにあり。



② ペナン・ヒル

島中部にある標高850メートルの小高い丘で、ケーブルカーで頂上まで登ることができる。頂上からはペナン島を一望することができる。頂上から眺めるペナンの夜景は永遠に見ていられるくらいに絶景であった。



③ コーンウォリス要塞 (Fort Cornwallis)

「コーンウォリス」とは、当時の東インド会社総督の名前で、フランス・ライト提督が3隻の船で上陸した場所に設けられた要塞である。入場料は20RMで、オランダ製の大型砲が残っており、写真は必須である。

④ クーコンシー (Khoo Kongsi)

中国福建省から移民したクー氏一族により建造され、1906年に再建。中国の名匠たちの手による緻密で、豪華な装飾に目を見張ること間違いなし。ペナンで最も美しいとされている中国寺院らしい。



⑤ バトゥ・フェリンギビーチ/チュー・ジェッティー

バトゥ・フェリンギビーチはペナンを代表するリゾートエリアで、パラセーリングやドーナツボートなど様々なマリンスポーツが安価で体験できる。海に夕日が沈む景色がとても美しい。海にはクラゲがたくさんいたので、入る時は覚悟と注意が必要。近くには夜市や屋台街もあり、夜まで楽しめる。

チュー・ジェッティーはいわゆる水上集落のようなもので、

バディ達によると、マレーシアの学生達の間ではフォトスポットであるようだ。お土産屋さんもそろっている。



2.食の観光も楽しめる！

①レッドガーデン

ジョージタウンの中心部にあり、アクセスが抜群で午前1時半まで営業しているため夜中までにぎわう屋台街。マレーシアをはじめ、中国、ベトナム、インド、タイなどの各国の料理店が集い、時には音楽ライブも行われ、音楽を楽しみながら食事を楽しむことができる。屋根があるので雨でも安心。写真はタイ風のチャーハンとココナッツジュース。とても美味しかった！



②ガーニードライブ

ジョージタウン北西部にあるペナン最大規模の屋台街で、マレー料理と中華料理がメインとなっている。近くにはガーニープラザという大きなショッピングモールもあり、ショッピングがてらに美味しいものも食べれて一石二鳥。写真はライチジュースとワンタンミーという中華系の料理。これがまた本当に美味しいのに合計で10RMという安さに驚き！



③ちょっと番外編：Halab

ジョージタウン中心部にあるアラビア料理のお店。店員さんたちがハンサムで、とてもきれいでお高そうな外観とは裏腹に、30RM以内で食べれるメニューが豊富。一品のボリュームがとても大きいので、シェアするのがおすすめ。とてもとても美味しくて、マレーシア最後の晩餐としてみんなで食べに行ったことは忘れられない思い出です。写真はマレーシア科学大学で同じクラスのアラビア人に勧められたShawarmaという料理。



3.アートがあふれるペナンのフォトスポット

◎ストリートアート

ジョージタウンといえば、ストリートアートといってもいいほどアートの街として有名で、街のいたるところ壁画や鉄で作られている針金アートが施されている。ストリートアートは約70個ほどあるため、ジョージタウンをぶらぶらと歩きながらストリートアート巡りをするのもおすすめ。ちなみに、よく目を凝らしていないと、気づかずに通り過ぎてしまうことも多いので注意が必要！



おわりに

3週間にわたるマレーシアでの滞在でしたが、学校ではしっかりと授業を受け、放課後にはペナンを観光する日々は、毎日が刺激的でとても充実していました。マレーシアでは様々な人種や文化に触れることができ、その経験は私の視野を広げてくれたという感覚があり、絶対に忘れることはないだろうと思います。本当に素晴らしい経験になりました。Terima kasih!!!

ペナン島の歴史的遺産

岩田和（人文社会科学部2年）

ペナン島で実際に見学した歴史的価値のある名所の紹介・感想を記す。文章の大部分は現地で入手したパンフレットの記載や実際に見聞きした情報をもとにし、日本で事前に調べた観光ガイドなども参考にした。

コーンウォリス要塞

1786年、イギリス東インド会社のFrancis Lightがペナン島に上陸した地である。コーンウォリス要塞という名はベンガル総督であったCharles Marquis Cornwallisにちなんでつけられた。イギリス東インド会社やイギリス陸軍の駐屯地として使用されていた。当初はヤシなどで作られた木造の建物だったが、1793年にFrancis Lightによってレンガを使用して再建された。1804年には副総督であるR. T. Farquharによって大きな改修が行われた。骨董条例によって歴史的な価値を認められている。

写真撮影をするための場所や要塞の充実した説明など、観光客に対して親切であると感じた。要塞の説明は英語、中国語の他に一部では日本語も使用されており、驚いた。



観音寺

ペナン島最古の中国寺院。1800年代に中国福建省及び広東省からの移民によって建てられた。敷地内には舞台があり、出し物を見学することも可能である。ペナン島内に同名の寺が存在するため、行く際には注意しよう。



カピタンクリンモスク

1801年にインド人イスラム教徒Cauder Mydinによって建てられたモスクであり、その規模はマレーシア最大である。入場するためにはモスクの許可が必要であり、今回はバディの方々にその手続きをしていただいた。中に入る際には顔以外を覆うためにローブを借りて見学した。祈る前に水浴びをして体を清めるための場所や祈りを捧げる場所を見学することができた。イスラム教に関するパンフレットが充実しており、イスラム教のことを学ぶ良い機会となった。



ダーミカマビルマ寺院

ビルマ式寺院。1803年に建立された。祈祷するために使用されている場所は、Nonya BetongがGeorge Laytonから購入した土地をこの寺院に寄進したものである。金色を基調とした煌びやかな建物が印象的で、建物の内部の仏陀に関する絵画や彫刻も美しい。中庭には仙女などの像も設置されていた。パンフレットには寺院の地図やそれぞれの場所の簡単な説明も記載されており、非常にありがたかった。



セントジョージ教会

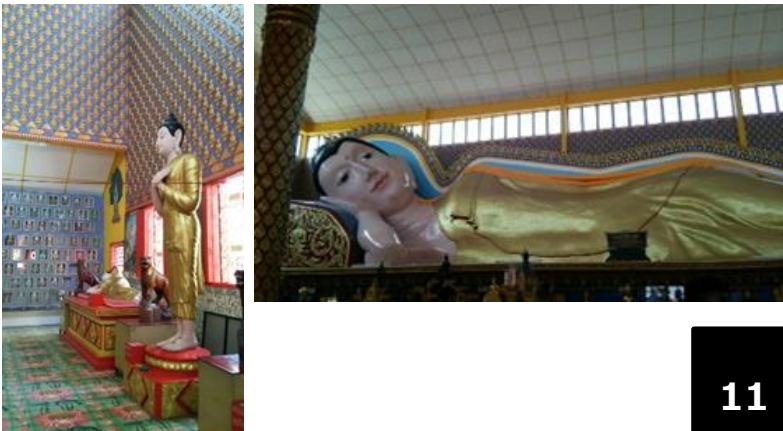
1818年に建てられた東南アジア最古のイギリス教会。芝生の中に純白の教会があり、美しかった。時間帯が合わず教会の内部に入ることができなかったため、残念だった。



寝釈迦仏寺院

タイ仏教寺院。1845年にビクトリア女王の治世における地域社会を象徴するという大目的のもとでイギリス東インド会社によって正式に土地の使用を認可され、1900年に建立された。1957年に建てられた横たわった大仏が特に有名で、その大きさは全長108フィート、高さ32フィートとマレーシア最大である。豪華で芸術的な建造物や絵画をつくるため、高い技術を持った彫刻家がタイから雇われた。この寺院の広間には約3万もの仏の絵が描かれている。また、広間にはカンボジアやベトナム、中国といった様々な国の様式の仏像と菩薩の像が展示されている。建物の内部に入る際には帽子や靴を脱ぐことを忘れないようにしよう。

牛久大仏がある茨城県に住んでいる身としては、巨大な仏像を建てるという共通した理念に対し、親近感がわいた。広間の中央には横たわった大仏が、その周りには小型の仏像があり、さらに壁にも無数の仏の絵が描かれていたため、あたかも自分が曼荼羅の中に入ったかのような感覚を覚えた。



クーコンシー

中国寺院。19世紀末、邱一族によって祖先を祀るために建てられた。1901年に火災によって焼失したが、1906年に再建された。1960年代には改修作業も行われた。邱一族一人一人の業績なども詳しく説明されており、邱一族の歴史を学ぶことができる。壁や天井のいたるところに美しい装飾が施され、豪勢で荘厳な印象を受けた。



マハリアマン寺院

1883年に建てられたヒンドゥー寺院。内部は写真撮影が禁止されていたため写真はないが、色とりどりの彫刻が美しかった。内部では私語も禁止されているため、入の際は注意しよう。



極楽寺

マレーシア最大の仏教寺院。1890年に中国出身の妙蓮によって建立された。建物は複数あり、どの建物も黄、青、赤、緑などで鮮やかに彩られていた。内部には金色に輝く仏像が置かれている。7階まであるパゴダ（仏塔）にも入ることができ、最上階から極楽寺全体を眺めることができた。パゴダの様式は中国、タイ、ビルマ式が採用されている。土産物屋も充実しており、ポストカードや置物、マグネットなどを購入することも可能である。門が閉まる時刻が比較的早く、パンフレットをもらい損ねたことが唯一の後悔だった。



ビクトリアメモリアル時計塔

1897年に地方の富豪であるCheah Chen Eokによってビクトリア女王の治世60周年を記念するために建設され、1902年に完成した。時計塔の高さは60周年にちなんで60フィートである。場所はコーンウォリス要塞のすぐそばであるため、コーンウォリス要塞を見学する際にぜひ時計塔も見よう。イギリス植民地時代の言い伝えに、観音寺というペナン内の寺の守護者であるライオンが夜に遊びに出かける際、この時計塔



やコーンウォリス要塞付近を歩き回っていたというものがある。この言い伝えは、中国寺院やイギリスによる統治の象徴がマレーシアの人々に受け入れられ、異なった文化が共存していることをよく表していると思う。

全体を通して

ペナン島の歴史を調査する中で、マレーシアではイギリスなどの旧宗主国や中国、イスラム圏といった様々な文化が共存していることを知った。それは歴史的遺産だけではなく、マレーシア内の人々のルーツや使用されている言語、料理などを見ても明らかである。互いに異なった文化を尊重する姿勢が、マレーシアの活気のある街並みをつくっているのではないかと感じた。

マレーシア科学大学では他国出身の学生の方々と一緒に講義を受け、エッセーやプレゼンテーションを協力して作成した。エッセーの書き方に関しては全体の構造や接続詞の使用法を、プレゼンテーションに関しては情報を聞き手に対して簡潔にわかりやすく伝える方法を体系的に学ぶことができたと思う。授業を受ける前は不安や緊張があったが、周囲の明るい雰囲気によって、安心して授業を受けることができた。

今回の語学研修では、4時まで授業を受けた後9時頃まで観光をするという充実した毎日を過ごすことができた。他の語学研修参加者との距離も縮まり、最後には日本への帰国が少し寂しくなるほどであった。マレーシアでの語学研修という貴重な経験ができたことを心からありがたく思う。



宗教拠点について

武澤彩（理学部1年）

極楽寺

アイルイタム丘にある福建省出身の妙蓮法師によって建設された仏教の寺院。12万平方メートルの広さを誇り、1893年に建築が始まったが、2019年4月時点でも増改築の工事が進められていた。この寺院で有名な建築物はパゴダという塔であり、下層から中国式、タイ式、ビルマ式と異なる様式の構造をとっている。2RMで中を観覧することができる。私たちは見る事ができなかったが、中国の春節にはライトアップされた姿が見られる。



スリ・マハマリアマン寺院

ジョージタウンにある最も古いヒンドゥー教の寺院。1833年に建設され、1933年に改築が行われた。入口のタワーでは、38体の神及び女神と白鳥の彫刻を見ることができる。この寺院は建物の内側の撮影が禁止されているので注意が必要。



カピタン・クリン回教寺院

カウダー・モフディーンによって建てられたインド・ムーア様式のイスラム教の寺院。現在のモスクは1916年に建てかえられたもので、以前は異なる様式のモスクが建てられていた。中に入るにはイスラム教の規則にのっとり、女性は髪をスカーフで隠すことや過度な露出を抑えた服装である必要がある。



マレーシア・ペナン島の面白いところはイスラム、キリスト、ヒンドゥー、仏教の宗教拠点が密集しているにも関わらず、互いに尊重しあい共存しているところです。中国寺院のお香の薫りを感じながらイスラムのお祈りを聞くという体験はこの短期留学に参加しなければ体験できない貴重なものだと思います。

ペナン島の自然環境

野洲由美子（農学部3年）

1) 気候

滞在した3月は最高気温が32~34℃を推移していました。日焼け止め、帽子、水分補給が必須でした。現地の人でも日傘を利用している人が多かったです。また湿度が高く、夜も蒸し暑かったです。朝は比較的涼しいですが日が昇るのが早く、夜は日が沈むのが遅く、7時半頃まで明るかったです。スコールは3月後半になるにつれて多くなってきて、夕方から夜だけでなく、昼間にも起こるようになっていました。とても局地的で短時間に激しい雨が降るため、滞在中は雨傘を普段から持ち歩いていました。

2) 動物

ペナン島で見ることができた動物はリスとサル、トカゲ、オオトカゲの4種類でした。サルはボタニカルガーデンでたくさん見ることができました。リスは宿泊していたレクサム内で見ることができました。オオトカゲはボタニカルガーデンと大学内で見ることができました。トカゲは大学の教室やレクサムの部屋などいろいろなところでみられました。

注意すべき虫としてCharlie（やけど虫）というアリがあり、クラスメイトが噛まれて被害にあっていました。そのアリの体液に毒が含まれており、噛まれたり触れたりすると皮膚が炎症をおこすようです。



3) 植物

ボタニカルガーデン

都市部から離れた傾斜地にある植物園。朝は涼しいためランニングする人たちが多く見受けられました。世界各国の植物が植えられており、日本のコーナーもありました（私が訪れた時は閉まっていて入れませんでした）。植物園内にはサルがたくさんおり、あまり人を警戒しないため近づいてたくさん写真を撮ることができました。



①ドリアン

スマトラ、ボルネオが原産といわれています。学校内やホームステイ先の村など様々な場所で見られました。手のひらサイズのものから人の顔よりも大きいサイズのものもありました(20〜40cm)。レクサムや空港ではドリアンの持ち込み禁止と書いてある看板があり、南国らしさが感じられました。ドリアン自体はおいしいのでドリアンのお菓子はとてもおいしいです。



②マンゴー

マンゴーはホームステイ先の村で見ることができました。実はまだ緑色で収穫前の状態でした。マンゴーの木はドリアンほど見ることができませんでした。木の高さはドリアンよりも低く、実はドリアンよりも一回り小さかったです。マンゴーを使ったジュースやかき氷がとてもおいしかったです。



③パーム

ホームステイ先で見ることができました。パーム油や砂糖として使われている植物です。ココナッツと同様に高い位置に実がなっているため収穫は大変だそうです。



④ミズレンブ

ホームステイ先で実を食べさせてもらいました。赤く、パプリカのような形をした実でした。手のひらサイズで柔らかいリンゴのような食感で、みずみずしくて甘くとてもおいしかったです。



⑤ゴールドランペット

大学内やペナン島のあちこちで見ることができました。滞在中は花が満開でした。黄色い花を咲かせ、地上に花をそのまま落とす木で、地面が一面黄色く染まっていました。



ペナンの交通

根本智貴(工学部1年)

私はペナンの交通について紹介する。ペナンの交通を一言で表すならば「危険」である。日本と比べて危険な運転をしている人が多く、はじめはとても驚いた。さらに現地の人たちの主な交通手段がバイクであり、スーツケースを抱えて乗っている人もいた。私たちはペナンで車を運転することはなかったが、道路を横断するときには何度も困らされた。ペナンには信号が少なく、道路を横断する際には自分で判断しなければいけない。これがとても難しく、なれないうちはなかなか渡れないということが多かった。しかし日本に帰るころにはみんな道路の横断が上手になっていたので面白かった。



次にペナンでの私たちの交通手段について紹介する。主な交通手段は二つあり。一つはバス、もう一つはGrabである。一つ目のバスはラピッドペナンバスというバスである。私たちは初日にこのバスが乗り放題になるカードをもらえる。このバスでは学校はもちろんのこと、ペナン内のいろいろなところへ行くことが出来る。ただし時刻表がはっきりしていなかったり、バスを間違えると予定と全く違うところに行ってしまうことがあるので注意が必要である。また、日本のバスと比べて運転がかなり粗いので、車酔いしやすい人は酔い止めなどを持っていたほうがいいかもしれない。私も最初はあまりうまく使えなかったが、うまく使いこなすことが出来るようになれば交通費もかからないのでとてもお勧めである。



二つ目のGrabは日本でいうと民間のタクシーのようなものである。Grabのアプリを使い、現在地と目的地を入力すると、近くにいるドライバーが3分くらいで迎えに来てくれる。さらにGrabはとても安く、遠くまで出かけても四人で乗れば、一人あたり300円

程度で乗れる。バスで行けないところに行くときや、暑くて歩きたくないときにとても便利だった。しかし、現地でインストールした人で設定が出来なかった人もいたので、日本を出発する前にインストールと初期設定をしておいたほうが無難である。さらに貴重品の管理も気を付けなければいけない。恥ずかしながら私はGrab内で携帯を落としてしまい、運転手の電話番号がフェイクだったために連絡することもできず、警察に被害届を出しに行く羽目になってしまった。外国で警察に行くというある意味貴重な経験が出来たが、結局携帯は帰ってこなかったのも、私と同じようなことにならないように気を付けてほしい。

上で述べたようにハプニングもあったが、私はペナンでたくさんの貴重な経験をする事が出来た。たくさんの外国人の友達が出来たり、民俗村で取れたてのココナッツを飲んだり、日本では経験できないことばかりで毎日がとても濃い三週間だった。同じクラスだった中国人の友達は来年日本に来るらしく、遊ぶ約束をしているので今から楽しみである。申し込みをするときにはかなり迷ったが、実際に行ってみて、心から行ってよかったと言えるので、行こうか迷っている人がいるのならぜひ行くことを選んでもらいたい。日本に帰るころには行ってよかった、もっと居たかったと思うだろう。



安くて美味しい！ マレーシア料理

松本彩香（教育学部2年）

ペナンでの3週間の研修の中で、私は様々なマレーシア料理を堪能した。その中で、特におすすめしたい物や印象に残っている物を食べた場所と合わせて紹介する。

1. Roti

私たちが現地で初めて食べたマレーシア料理であるため、強く印象に残っている。朝、バディたちと一緒に大学内にあるお店

“Subaidah”で食べた。Rotiはナンよりも生地が薄く、スープカレーのよう



なものに付けて食べるのが一般的のようである。また、Rotiの味の種類は複数あり、私たちが初めて食べたRotiには中に卵が入っていた。カレーも日本で食べたことのあるような味を想像していたが、味わったことのない香辛料がたくさん効いていて辛かったが、とても美味しかった。値段は味の種類によって変わるが、1枚0.9～2.2RMほどで日本円に換算すると、30～60円程度で食べることができる。ちなみに、Subaidahでは他にも様々なメニューがあり、お昼時には多くの学生で賑わっていて人気があることが伺えたので、ぜひ食べに行してほしい。

2. Char Kuey Teow

私がペナンで食べたマレーシア料理の中で、特に美味しかった料理だ。Penang Hillに行った時に、ケーブルカーで登った先にあったお店で初めて食べた。米粉で作られた麺と海老や卵、もやしなどが入っていて、ソースの味が絶妙でとても美味し



かった。Penang Hillの山頂には、高そうなレストランが数店舗とリーズナブルな価格で食べることができる屋台のようなお店が複数連なっている場所があり、私たちは後者で夜ご飯を食べた。左の写真は私が注文したお店のメニュー欄だが、他にも様々な料理を提供しているお店が多くあった。ただ、行った時間が遅かったからなのか、既に閉まっていたお店もいくつかあったので、

行く時間には気を付けたほうがよさそうである。また、Char Kuey Teowはペナンの至る所で作っているお店を度々目撃したので、いつでもどこでも食べることができる。

◎おすすめの屋台街

1. Long Beach

Batu Ferringhiで遊んだ後に寄った屋台街。様々な店が軒を連ねていた。各テーブルに番号が付いており、席に着いたらまず飲み物を注文する。その後、店で自分のテーブル番号を伝えて料理を注文する制度となっている。私はここで、ライチジュースの美味しさ



感動した。ライチの果実が丸ごと2～3個入っていて、さっぱりと飲みやすいので本当におすすめ！



2. Red Garden

ジョージタウン内にある屋台街。規模はLong Beachより若干小さいように感じたが、こちらにもたくさんのお店があった。注文の仕方はLong Beachと同様である。残念ながらライチジュースはなかったが、飲み物の注文を取りに来たおじさんがとても気さくで面白かった。食べた料理ももちろん美味しかった。また、出入り口付近には針金アートがあるので、写真を撮って楽しむこともできる。



◎ホームステイ先で食べた家庭料理



土日

の2日間に渡り行われたホームステイでは、各家庭に参加者2～4人がホームステイをし、マレーシアの家庭料理を味わうことができた。私はベジタリアンの人と一緒に滞在したため、野菜中心の料理が多く振る舞われたが、久しく十分に野菜を食べることができていなかった

ので、それはそれでありがたかったし、どの料理もとても美味しかった。また、厚揚げも多く使われており、大学内のお店でも厚揚げを使った料理を目にすることがあったので、マレーシアではよく使われる食材の1つなのかなと思った。

現地では、屋台街やショッピングモール内のフードコートで美味しい料理を安く食べることができる。ぜひ様々な場所に足を運び、マレーシア料理を楽しんでほしい。

短期留学の感想

私はこれまで海外に行ったことがなく、他国の人とコミュニケーションを取る機会も少なかったため、出国前やマレーシアに着いてからの数日間は言葉の壁や現地での生活に対する不安でいっぱいだった。自分の英語力に自信を持てなかった

ので、最初は英語を話すことに抵抗を感じてしまい、なかなか積極的にコミュニケーションを取ることができなかった。しかし、大学の先生方やクラスメイト、そしてバディたちは私の拙い英語にも耳を傾け、全力で理解しようと努めてくれた。そのような彼らの姿を見て、私は正しい英文を言うことを意識するよりも、とにかく伝えたいという気持ちを大事に話そうと思うようになった。その甲斐あってか、彼らととても仲良くなることができた。クラスメイトはみんな個性豊かで、昼食や夕食を一緒に食べるくらい仲良くなった。バディたちとは昼食や夕食を共にする以外にも、ジョージタウンに一緒に行ったりと多岐にわたってお世話になった。授業は日本では受けたことのない面白い内容ばかりだった。毎回、授業で焦点を当てる英語の4技能が変わり、それに合わせて授業内容も変わるの

でとても為になったし、楽しく取り組むことができた。また、この留学と一緒に参加したメンバーたちと放課後や休日にジョージタウン散策をしたり、買い物に行ったりして、十分に観光も楽しむことができた。

3週間ペナンで過ごした時間は、自分の視野を広げるきっかけになり、周りの人たちにも恵まれ、大変有意義に過ごすことができた。この経験を活かし、色々な人との交流を通して自分をもっと成長させることができるようにしたい。

マレーシアの料理

磯前朱里（農学部2年）

マレーシアはマレー系(約67%)、中華系(約25%)、インド系(約7%)の3つの民族からなる多民族国家である。そのため食のバリエーションも豊富で、マレー料理、中華料理、インド料理、ニョニヤ料理の4大料理を基本に、ローカルフードから高級料理まで食べることができた。ニョニヤとは、中華系移民の男性と現地のマレー系の女性との間に生まれた混血の女性のことをいい、ニョニヤが作る見た目は中華、味はマレーの料理をニョニヤ料理という。またマレーシアは多宗教国家であり、イスラム教徒は豚肉を食べず、ヒンドゥー教徒は牛肉と豚肉を食べないため、鶏肉を使った料理が多かった。味付けは辛いものと甘いものが多く、私は辛い食べものが苦手なため食べるのが大変な料理もあった。ミロが人気でどのお店でもだいたい販売されていた。マクドナルドやケンタッキーなどのファストフード店や、STARBACKSなどのカフェも多くあった。回転寿司のお店もいくつかあり、sushikingという回転寿司に行った。日本とは違って寿司以外のラインナップが豊富で回ってる寿司のレーンも多かった。値段は日本と同じくらいだった。

機内食は、成田・クアラルンプール間でマレー料理か日本料理を選んで食べた。クアラルンプール・ペナン間では軽食が出た。意外と量が多かった。

大学内には、通常授業を受ける外国語学部から歩いて行ける距離に6〜7個飲食店があり、そこで朝食や昼食を食べた。バイキング形式のお店やカフェなど色々なお店があった。

ペナンではホーカーと呼ばれる屋台街がたくさんある。マレー系、中華系、海鮮などさまざまな種類のお店がある。席に着くとまず店員さんがドリンクの注文を取りに来てくれて、ドリンクの注文を終えたら好きなお店で料理を注文する。料理を注文する際に、自分が座っているテーブル番号も伝える。料理を持ってきたタイミングでお金を支払う、という仕組みのところが多かった。

マレーシアで食べた料理の一部を紹介する。どれもほぼ300円以内で食べることができて、美味しかった。

ロティ(Roti)

ロティとは、小麦粉を水で練って焼き上げた粉物全般のことである。ナンよりも薄く軽いクレープのような生地のもので、カレーソースに浸して食べた。大学内にあるSubaidahというレストランで食べることができた。ロティの中身をチーズや卵、カヤジャムなどでトッピングすることもできる。

ワンタンミー(Wantan Mee)

スープかドライ(スープなし)を選ぶ。店員さんのオススメはドライだったのでドライを食べた。ちぢれ麺にワンタンとチャーシューがトッピングされていた。

チャークイティオ(Char Kway Tiao)

福建語でcharは炒める、kway tiaoは米でできた平らな麺という意味である。この麺に醤油、唐辛子、海老、貝、もやし、ニラ、卵と一緒に高温で炒めて作られる。麺は太くて短かった。味付けは唐辛子を入れなければ辛くなかった。

チキンライス(Chicken Rice)

鶏のスープで炊いたご飯と蒸し鶏を、お好みでソースをかけて食べる。日本の米粒よりも長くて、水分量が少なくパサついていた。

ミーゴレン(Mee Goreng)

太めの卵麺をチリソースで炒めた焼きそば。何も知らずに頼んでしまい、食べてみたらとても辛かった。舌と唇がヒリヒリするような辛さだった。

チェンドル(Chendul)

ココナッツミルクの中に緑色に着色した米粉のゼリーと小豆が入っているかき氷である。チェンドルが机に置かれた時はその見た目に驚いた。

オススメのお店はジョージタウン内にあるhalabというアラビア料理のレストランである。多くの友人が大絶賛し2、3回halabへ行った人もいた。値段は他の飲食店より高いが、とても美味しかった。ガーニープラザ内にあるDin Thai Fungという台湾料理のレストランもオススメである。日本にも支店はあるがマレーシアは物価が安いいため、日本よりも安い価格で美味しい台湾料理を食べることができた。



Roti Canai & Fried Egg



Wantan Mee



Char Kway Tiao



Chicken Rice



halab

マレーシアの教育から学ぼう

塚田綾音（教育学部2年）

マレーシアでは、第一言語はマレー語であり、日本と同じように、英語を第二言語として学びます。このレポートでは、私がマレーシア科学大学の授業を受けて感じた、日本の英語教育との共通点と相違点を見つめ、日本の英語教育が取り入れられる良点を考えていきます。（以下共通点を○、相違点を☆とします）



○リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能をバランス良く身につけることを重要視
日本でも、4技能のバランスを取る方法は課題となっており、一般的にリーディングに重心が偏り、スピーキングの時間が不足していると言われます。
マレーシアでは、事前テストから、能力別のクラス(☆)に分かれ、授業を受けました。それぞれの能力に応じて4技能への配分を変えたアプローチがなされ、効率良く4技能を伸ばすのに最適な環境だと感じました。しかし、全てのクラスにおいて、スピーキング力育成には特に力を入れている印象を受けました。スピーキングを取り入れた伝言ゲームや、班で時事問題について話し合い、掲示を作成してプレゼンを行うこともありました。



☆日本では能力別クラス自体が少ないように思えます。理由は、個人をテストによって簡単に振り分けることへの疑問等、様々ですが、根本的な考え方を変えれば解決するような気がします。
“一番下のクラスは恥、一番上のクラスは優秀”という考え方です。マレーシアでそのような考え方をする教員、学生はほぼいませんでした。自分の置かれた状況を受け止め、今の自分に必要なことを見つけ、積極的に取り組む学生が多く、自分を高める考え方が形成されていました。

☆スピーキングテストへの練習に対する学生の考え方
日本では過去問を手に入れ、解答例を暗記、または模倣し、英語専科の教員に依頼し、張りつめた環境で本番のように練習をするのが一般的です。英検の2次試験対策を思い浮かべてもらうとわかりやすいでしょう。一方、マレーシアではこの方法も取られますが、それ以上に、自分の普段の発話機会を大切にする考え方が多いです。クラス担当の先生に、スピーキング技能の効果的な伸ばし方をお伺いしたところ、“ネイティブスピーカーと話す、新しい友達と話す”という解答をしてくださり、発話自体を楽しんですることが良いとお考えの様子でした。この違いは英語発話環境の違いが大きく影響していると思います。

☆英語発話環境の違い
日本はEFL(English as a Foreign Language)の環境です。教室では英語を使用しますが、教室外に出てしまえば、英語を話す機会はほとんどありません。一方で、マレーシアはESL(English as a Second Language)の環境です。教室外を出ても、英語が飛び交っています。これはマレーシアが多民族国家であり、英語を軸にそれぞれの文化、気持ちを伝え合う必要性から生まれた環境でしょう。日本も、グローバル化への対応が追い付き始め、外国人を受け入れる体制が整い始めました。いずれ、ESLの環境に近づくのでしょうか。個人的には、ESLの環境になれば、英語を発話する機会も増えますし、日本の“内と外”の“外”ではなく、“内”で外国の人とわかり合える日が来るのかなと期待しています。

最後に、この短期留学をするにあたり、サポートしてくださった皆さんを軽くご紹介させて頂くと共に、この場をお借りして感謝申し上げます。
準備の段階からサポートしてくださった瀬尾先生、Mr. Azz Reel、留学期間中 共に過ごした11名の学生、International Classの学生、教員の方々、学生生活を支援してくれたバディーの皆さん、そして、このレポートを作成するにあたりお忙しい中ご協力くださったMr. Affaddil、本当にありがとうございました。皆さんに支えられて、私は充実した3週間を過ごすことができました。
Thank you so much, I had really great experiences in Penang thanks to all of you!!
And for readers of this report, I recommend you to go to Malaysia to study English and have confidence to yourself.



「日本人は真面目」と言われるように、あなたにとってマレーシア人とはどのような印象ですか？
ペナンでの生活とバディへのアンケートをもとに、マレーシア人の知られざる姿を暴いてみましょう！

Q. 公共交通機関がとても遅れますが、イライラしないのですか？

レクサム（大学の寮）からUSMへの通学には、「ラピッド・ペナン」というペナン州全域を走る公共バスを利用しました。例えばUSMへは301～304のどれかに乗れば行けるのですが、簡単にはいきません。なぜなら、バスは来るときは一気に来る、来ないときは一本も来ないからです！ というのも、このバスの時刻表という時刻表は見つからず（存在しないのかもしれませんが）、本数が多いもので10～20分に一本、少ないもので120～130分に一本ということを知りました。それを知らずに、30℃越えの中30分以上待ったこともありました。日本では第一に時刻表で時間を把握でき、第二に大幅な遅延はまれで、第三にここまで暑くない！ ので、バスでこんなにも苦労するとは思わなかったです。このように、ペナンでは公共交通機関の遅れが日常茶飯事なため、ペナンの人々はもう慣れっことで気にならないのかと思っていました。ところが、やはりイライラするそうです（笑）個人的にはそのようなそぶりをあまり見かけなかったように思うのですが、実際内心は同じであって、この感覚は世界共通なのかもしれません（笑）

A. 正直、時々イライラします（笑）

Q. ペナンの人々って健康に関心はあるのですか？

少々批判的に聞こえかねない質問ですが、ペナンを含むマレーシアの料理がなかなか刺激的なものだったので…。マレーシアの料理は日本人の感覚からすると味が極端なものが多いです。辛いものは辛すぎ、甘いものは甘すぎ！ のように。特に、辛さは日本にはない種類かつレベルなので最初は大変ですが、慣れるとその辛さが病みつきになります。こんなにも辛い料理が多い理由の一つは発汗作用を促すためだそうです。マレーシアは年中高温多湿なので暑さ対策は欠かせず、辛すぎることも納得がいきます。しかし、極端な味付けだけならまだしも、野菜の少なさには驚きました。大半の食事には付け合わせの薄切りのズッキーニが2、3枚です。レタスやトマトが付いていたらこの上ない！ というほど。ところが、これは私の勘違いでした。バディいわく、中華料理はたくさん野菜を使っているし、マレー料理屋でも普通「ulam」という多くの生野菜をのせた大皿がありそこから選んで食べるそうです。このように、私が出会った料理には偶然野菜が少なっただけであり、マレーシアの人々もきちんと野菜を食べているようです。（よかった！）しかし、日本で食べるような（生）野菜はあまりないのでご注意を…！

A. あります。（ただし、個人差もあります）

ホップ・ステップ・Malaysian ～マレーシアの流行事情2019～
・食べ物→チーズ（何でもチーズと一緒に食べる）
・言葉（スラング）→「bossku」（意味：friend/buddy）
使い方の例「Baik bossku」
（意味：All right my friend/OK buddy）



Q. マレーシアの学生は熱心に勉強していますか？

私たちはIEPという英語学習プログラムに参加していたため、一般的な学生の学校生活については定かではありません。しかし、IEP内でさえ動画やポスター作成、プレゼンなどの積極的な授業参加が求められたため、USM全体でもアクティブな授業が行われ、そこで学ぶ学生もさぞかし熱心なのではないかと考えました。結果はその通りでした。さらに、最近学生間では政治の話題が熱いようです。数年前までは政治に関心があるのは大人だけでしたが、昨年の選挙で現在の政府に変わったことが若者にも影響を及ぼしたそうです。今では若者も政治に関する膨大な知識をもち、日常生活の中に当たり前に政治があるとのこと。日本の学生も見習うべき姿勢ですね。

A. おおよそ熱心だと思います。

Q. 「マレーシア人はよく休む」と以前新聞で読んだのですが、本当ですか？

2018年の祝日数をみるとマレーシアが18日、日本が20日と日本の方が多いです。ところが、マレーシアの有休取得率は100%、そして何より様々な宗教に関連した休みを国民全員がとるのです。1月はヒンドゥー教の祭日「タイプーサム」、2月は中華系の春節（旧正月）、6月はイスラム教の断食明け祭「ハリラヤ」など多くのイベントがあり、それらを互いに祝い敬うのは平和と調和を維持するために重要なのだそう。しかし、祝日にも家かオフィスで仕事をする人もいて、祝日といっても単にお祝いだけでなく普通にやらなければならないことも多くあるようです。また、ワーク・ライフ・バランスを非常に重視しており、心身の健康のために家族や友人と過ごす余暇は欠かせないとのことでした。

A. 本当ですが、それにはきちんとした理由があります。

Q. マレーシア社会は個人主義 or 集団主義のどちらですか？

アジア諸国は集団主義社会の傾向が強いとの研究結果があります（日本はほぼ中間です）。集団主義と聞くと、集団内は組織的で結びつきが強いものの少々排他的なイメージがありました。集団主義であることは間違いないようですが、その内情は想像とは異なっていました。多くのマレーシア人は自身よりもまずは他の人々のことを考えるのを好むそうです。例えば、職業選択の際も、その選択が家族のためになるかを考えるとのこと。さらに、何か問題が起これば一人で抱え込むのではなく、いつも家族や友人に意見を求めるそうです。大多数の意見に従うタイプの人もいるようですが、総合的にみると自身の利益より全体の利益を優先するあたった国民性であることがわかります。また、マレーシア人の多くが他文化・他民族を尊重し合い、外国の人に対しても寛容であるようです。実際、私たちがどこへ行っても「やあ！ どこから来たの？」と聞かれ、話に花が咲くこともしばしば。上記の祝日の件にもあるように、様々な人が共存する多文化・多民族な国は互いに認め合い共有することで成しているのかもしれない。

A. 集団主義です。

Q. ズバリ、マレーシアの人々の国民性を教えてください。

多文化・多民族なマレーシアなので多くの個性があります。一部、特に高齢者は控えめな一方、若者はオープンマインドで正直だけどやや頑固なのだそう。しかし、全体としてはフレンドリー、礼儀正しい、正直者のようです。ただ少し短気なので、もっと忍耐強くなるべきだという意見もありました。また、個人の解釈ではあるものの、他の二つの質問で少し違った側面をみることができました。それは、調和の中にもきちんと自分を確立している点です。第一に「もしあなた以外の全員があなたとは異なる同一の意見を持っていたとしても、自分の意見を主張できますか？」という質問、第二に「あなたは自分次第で自分の人生を変えられると思いますか？」という質問。これらに対し、全員が「できる」と答えました。もちろん一概に言えるものではありません。しかし、単に個人には何もない中周囲と合わせることで全体を保っているのではなく、まず自分自身の考えや意見がしっかりとあって、それを持ち寄って総体の調和を図るという中身が密に詰まった社会および国民性だと私は捉えました。

**A. フレンドリーで礼儀正しい正直者。
でも、ちょっと怒りっぽい（笑）**

Q. 最後に、マレーシア人であることを誇りに思いますか？

全員一致です。素晴らしい！

A. もちろん！



マレーシア短期語学研修に参加して

本当に、本当にあつという間の三週間でした。ずっと海外への思いがあったにもかかわらず踏み出せなかった私にとって、今回の研修は最後の機会だと思いました。大きな意味を持つ三週間にすべてを詰め込むことができたことと非常に満足するとともに、自分自身を超えることができ強い自信になりました。現地では楽しい思い出と同時にたくさんの反省がありました。語学面はもちろんのこと、人とのかかわり方や考え方など、自分を見つめ直す良い機会になりました。三週間という短期間では目に見えるような成果はないかもしれませんが、しかし、この経験は何にも代えられない唯一無二のものであり、間違いなく私の何かを変えました。それがわかるのはこれからであり、その何かを示していけるかどうかだと思います。研修自体が終わったことは言葉にできないほど残念ですが、成長した自分を見せていけるよう前を向いていきたいです。最後に、この研修に携わってくださった瀬尾先生、USMの先生方、バディ、クラスメート、旅行会社の方等、そして何より茨城大学の仲間たち、すべての方に心から感謝いたします。



茨城大学短期海外研修マレーシア 2018年度報告集

2019年4月22日 発行

著者：茨城大学2019年度マレーシア短期研修参加者

編者：瀬尾匡輝

発行：茨城大学グローバル教育センター

Webサイト：<http://cge.lae.ibaraki.ac.jp/>

※無断転載・改変を禁じます。